

令和元年10月教育委員会会議録

---

【会議に付すべき事件】

- 議案第16号 後援名義使用願の承認について  
議案第17号 「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 熊取町の  
分析結果」について  
議案第18号 後援名義使用願の承認について  
報告第7号 令和元年9月熊取町議会定例会の結果報告について
- 

【その他】

- 教育委員会事務局職員の異動（令和元年10月1日付）  
後援名義使用願の承認について【報告】6件

《10月分》

- 生涯学習推進課【煉瓦館・公民館・総合体育館 他関係団体】事業予定  
図書館【熊取図書館 他関係団体】事業予定  
小・中学校行事予定

《8月分》

- 生涯学習推進課【煉瓦館・公民館・総合体育館 他関係団体】事業報告  
図書館【熊取図書館 他関係団体】事業報告  
社会教育施設等利用状況
- 

日 時 令和元年10月7日（月）午後5時00分から  
場 所 役場北館3階 大会議室

---

【教育委員会定例会出席者】

教育長	勘六野 朗
教育委員（教育長職務代理者）	梶山慎一郎
教育委員	松井みゆき
教育委員	土屋 裕睦
教育委員	鈴木 直子
教育次長	貝口 良夫
統括理事（学校指導担当）	吉田 茂昭
理事（学校指導担当）	林 栄津子
理事（生涯学習・図書館担当）	野津 恵
学校教育課長	松浪 敬一

学校教育課学校指導参事	櫻澤 彩香
学校教育課学校指導参事	河井 淳
学校教育課学校指導参事	荒木 圭典
生涯学習推進課長	立石 則也
生涯学習推進課生涯学習参事	瀬野 裕三
図書館長	原田 貴子
書記	南條 剛

開会 午後5時00分

勘六野教育長 定刻になりましたので、ただいまから令和元年10月の教育委員会定例会を開催いたします。

本日の署名委員には鈴木委員を指名しますので、よろしくお願いたします。それでは、議事に入りたいと思います。

議案書の1ページ、議案第16号「後援名義使用願の承認について」、事務局から説明をお願いいたします。

荒木参事。

荒木参事 それでは、1ページの議案第16号「後援名義使用願の承認について」（全国小学校集会・特別支援教育集会）をごらんください。

令和元年9月5日付で数学教育研究会委員長、伊藤潤一氏より、全国小学校集会・特別支援教育集会の開催について、当委員会の後援名義使用願がありましたので、これを承認するというものでございます。

本件は、新規の案件としてご審議をお願いするものです。

次のページをごらんください。

後援申請書のほうですが、開催日は2019年11月9日及び11月10日。開催場所は、和歌山信愛大学教育学部子ども教育学科となっております。

内容についてでございますが、開催の目的にもございますように、「よりよい算数学習のあり方を追究し、実践にいかすため、算数科教育に関する講演・講座・分科会・実践交流と教具類の展示などを行う」というものです。

参加予定人員は、150人。参加対象者は、算数科教育に興味を持つ教員、研究者、保護者、市民、学生などで、参加者負担に関しましては、資料代2,000円となっておりますが、保護者・市民は

1, 000円、学生以下は無料ということでございます。

3ページから7ページまで、会則、名簿、チラシ等がございますので、ご参照ください。

以上、議案第16号「後援名義使用願の承認について」（全国小学校集会・特別支援教育集会）の説明とさせていただきます。よろしくご審議いただきまして、ご承認賜りますようお願いいたします。

勘六野教育長 初めての案件ということで、今、承認審査が出てきましたけれども、今の説明につきまして、何かご質問はございませんでしょうか。

荒木参事 すみません、私、今、気づいてしまって、申しわけございません。議案書1ページの1行目でございますが、「数学教育研究会」と、私、申し上げまして、そのようにプリントされておりますが、申しわけございません、「数学教育協議会」の誤りでございます。失礼いたしました。

勘六野教育長 これは、主催者の名称ですね。

荒木参事 そうです。

勘六野教育長 中身は2ページに書いてある内容ということですが、いかがでしょうか。

では、議案第16号「後援名義使用願の承認について」承認としてよろしいか。

委員全員 （「はい。」の声）

勘六野教育長 議案第16号「後援名義使用願の承認について」承認とします。  
続きまして、その次の議案書、8ページになります。報告第7号「令和元年9月熊取町議会定例会の結果報告について」、事務局から説明をお願いいたします。

松浪課長。

松浪課長 報告第7号「令和元年9月熊取町議会定例会の結果報告について」、説明をいたします。

事前配付の議案書8ページをごらんいただきたいと思います。

今回、報告させていただきますのは、9月定例教育委員会でご承認をいただき、町議会定例会に上程させていただいた案件で、議会の議決に要する契約についてと、令和元年度熊取町一般会計補正予算（第6号）についての2件でございます。

まず初めに、議会の議決を要する契約について説明いたします。内容につきましては、令和元年9月教育委員会定例会で説明をしております。内容は省略していますが、口頭で若干説明をさせていただきます。

1つ目の町立小・中学校の校務用パソコンの購入につきましては、各小・中学校において事務の効率化などのために整備している校務用パソコンの教職員に対する配備率を100%に引き上げるため、校務用パソコン、ノートパソコンを48台購入し、また全小・中学校の学校図書館に配備しているノートパソコン全8台の更新を行うものでございます。

2つ目の町立小学校給食用備品の購入につきましては、給食用備品として西小学校及び南小学校の食器洗浄機各1台を更新するものでございます。

次に、令和元年度熊取町一般会計補正予算（第6号）につきましては、大きく2点ございまして、1点目は中学校の支援学級に在籍する生徒の保護者の経済的負担を軽減し、特別支援教育の普及・奨励を図ることを目的として、学用品費や給食費の一部を助成する支援教育就学奨励援助費に関する補正予算でございまして、対象人数の当初見込みからの増加によりまして、必要となる歳出予算41万5,000円を増額補正したものでございまして、その財源となる特別支援教育就学奨励費補助金につきましても、30万3,000円を補正予算として計上したものでございます。

2点目は、重要文化財中家住宅の災害復旧に向けた設計委託料ということで、412万1,000円を計上したというものでございます。

これらの件につきましては、地方自治法第96条第1項第8号及び町の要議決契約等条例第3条の規定により、熊取町議会9月定例会に議案上程し、議決を求めたものでございます。町議会におきましては、両議案とも慎重なご審議を賜り、原案どおりご可決いただきましたことをご報告いたします。

以上でございます。

勘六野教育長

既に町議会では承認していただいているということですが、

ただいまの説明で何かご質問がありましたら、お受けしたいと思いますが、ございませんか。

前にも説明がありましたように、校務用パソコンがこれで全職員に配付ということですね。

松浪課長                    そうです。教職員 1 人 1 台が実現するということになります。

勘六野教育長                これ、入るのはいつでしたか。

松浪課長                    年内に入る予定をしております。

勘六野教育長                わかりました。  
あと、補正予算についてもご質問はございませんか。  
では、報告第 7 号「令和元年 9 月熊取町議会定例会の結果報告について」承認としてよろしいか。

委員全員                    （「はい。」の声）

勘六野教育長                報告第 7 号「令和元年 9 月熊取町議会定例会の結果報告について」、承認とします。

次に、本日配付しております議案書の 28 ページ、議案第 17 号「『平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 熊取町の分析結果』について」、事務局から説明をお願いいたします。  
林理事。

林理事                        それでは、28 ページをお開きください。  
議案第 17 号「『平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 熊取町の分析結果』について」です。  
平成 31 年 4 月 18 日に実施された「平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の分析結果」を、別添「平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 熊取町の分析結果」とすることについて承認を求めるといふものです。  
それでは、1 ページをお開きください。  
今年度の学力テストの分析につきましては、100 ページにわたる分析結果というふうになっております。  
それでは、順に説明をさせていただきます。

1 ページから 3 ページにつきましては、全国学力テストの目的であったり、対象等を書いております。

3 ページには、当日の時間割のほうを記載しております。小学校につきましては、今年度、国語、算数と質問紙。中学校につきましては、国語、数学、今年度初ということで英語の調査もありました。プラス質問紙ということになります。英語の調査につきましては、今後 3 年に 1 回実施されると。「話すこと」調査ということも初めての試みだったわけですが、ここについては、パソコンの OS がウインドウズでしか作動しないというところもありまして、調査はされたけれども、参考値にとどまっているというところです。

あと、昨年度までは、国語、算数・数学につきましては、A 問題、B 問題——基本的な知識を問う問題が A 問題、応用が B 問題という形でしたが、ことしから一体的に問う形式に変わっております。

それでは、それぞれの教科について、成果、課題等について説明をさせていただきます。

6 ページをごらんください。

順に、小学校、国語、算数。中学校、国語、数学、英語というふうに分けておりますので、概略についてになりますが、説明をさせていただきます。

まず 6 ページ、小学校国語です。

分布のグラフを見ていただくとわかるかなと思いますが、例えば正答数 1 2 問、1 3 問あたりが全国・府よりもグラフ的に熊取町のほうが上であったりとか、0 問から 4 問の低層のところも熊取町は少なかったと思っています。

全体的には平均正答率は全国・大阪府を上回る結果となりました。実は国語については、ずっと熊取町は課題で、去年については A、B とも、国語については全国・府を下回るという結果でしたが、ことしについては、一応全国・大阪府を上回る結果。あと、子どもが答ええないという無回答率の割合も全国・府よりも低かった、これもうれしいところでもあります。

では、7 ページをごらんください。

下のほうに、課題となった設問と書いてあります。国語については、読むとか、聞く、話す、書くとか、言語の知識、理解という 5 つの領域があるわけですが、その中でも熊取町としては、「書くこと」の領域に課題があるかなというところが見られました。

そこに書いてありますが、「書くこと」の領域において、「図表や

グラフを用いた目的を捉えること」については、全国・府の正答率を上回っておるんですけども、「情報を相手にわかりやすく伝えるための記述の仕方を捉えること」については、全国・府を下回る結果になったということで、特に「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと」というところに課題があるかなと思われました。

具体的には、8ページのところに、特に本町で課題だなと思った設問について載せています。

9ページには、学習指導に当たって特に先生方が見ていただくときに、こういった指導を今後していく必要があるかなというようなことを書かせていただいております。

あわせて、10ページ、11ページにも、具体的にこのような指導例があるなというところ、国から出されている資料をここに添付しながら掲示しております。

12ページにも同じように書いております。

13ページには、児童質問紙との関連性を書かせていただいております。質問紙の中でも国語の内容を問うような質問がたくさんされました。例えば、そこに書いておりますが、「国語の勉強は大切だと思いますか」とか、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問がありますが、そこに肯定的な回答をした児童の割合は比較的高かったと。全国・府と同じような程度でした。

ただ、一方、「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか」、また「国語の授業で自分の考えを話したり、書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか」という質問に対しては、肯定的な割合は低く、全国・府の割合を下回るという状況でした。本町においては、ずっと国語が課題だなというところで、各学校で、授業を初めいろんな場面で子どもたちが自分の思いを話したり、書いたり、表出したりするようなところ、言語活動を入れて、表現力の向上には努めていただいているんですけども、今後は自分の考えを話したり、書いたり、表出するときには、目的に応じたふさわしい表現はどうか、うまく伝わるように理由を示したりするなど、組み立てるにはどうしたらいいかというところをしっかりと指導していく必要があるかなと、この課題から捉えたところです。

続きまして、14ページをごらんください。

小学校算数です。算数のほうもグラフを見ていただいて、棒グラフになっているのは熊取町になります。最大の全問正解の14問あたりも比較的割合が高かったりとか、あと、中位層、高位層になるんですが、10問、11問あたりも府・全国よりも正答数というか、問題が合っている子どもの数が多いのかなと。一番うれしかったと思ったのが、0問という子がゼロ人なんです。全員1問以上は答えられたというところもすごくうれしかったと思っています。

全体的な結果としては、算数につきましては、全国・府を上回るということになっております。

昨年度との比較であれば、昨年度はA問題、簡単な問題は全国・府よりも上でしたけれども、B問題は実は全国・府よりも下回っていたということがあったんですが、ことしについては、算数は比較的いい結果になったと思っております。

ただ、課題としましては、15ページのところ、黒丸の3つ目に書いておりますが、「記述式」を除く全ての項目で、全国・大阪府より高い値となったと。裏返すと、「記述式」、書くというところが課題かなというふうなところも見えてきました。

具体的に課題となった設問につきましては、下のほうに書いておりますが、課題となった設問は、大きい3番の(2)、示された計算の仕方を解釈し、文章をまず読み取って、減法の場合、引き算の場合をもとに、除法、割り算に関しても成り立つ性質を言葉を用いて説明する、記述できるかどうかを見る問題です。

そういうところで、簡単な計算だったり、そういったことはできるけれども、実際、数学的な言葉を用いながら表現するというところがちょっと弱いところがあるかなというところが課題になりました。

続きまして、具体的な設問は15ページから16ページにかけてと、学習指導に当たっては17ページ。

18ページには生徒質問紙との関連性ということで書かせていただいております。

内容を少し読ませていただきますが、「算数の勉強は好きですか」とか、「算数の勉強は大切だと思いますか」、「算数の授業の内容はよく分かりますか」という質問に対して、「当てはまる」と回答した児童のほうが正答率が高い結果ということで、相関関係があるかなと。また、「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」とか、あるいは「算数で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える」という質問についても、相関関係が見られたと



ということです。正答率が高いというところです。算数全般の質問紙の答えは、比較的好意的な回答、肯定的な回答は、全ての質問において、ほぼ全国・府を大きく上回っていたので、先生方はやっぱり、算数の授業において工夫しながら授業展開をしてくださっているんだなというようところが質問紙の結果から見られたところかなと思っています。

続いて、中学校です。

19ページには、中学校国語について書いております。国語のグラフを見ていただくと、全問正解の10問というのが少し割合が少ないのかな。一方、1問、2問、3問、4問あたりが少し割合が大きくなっているかな、多くなっているかなというふうに思っています。中学校の国語については、全国・府を下回る結果となっております。昨年度の結果は、A・B問題とも全国は下回るけれども、府よりは上というような状況だったんですが、ことしについては両方下回るという結果になっています。

19ページの下の方も見えていただくと、熊取町は太い線で書いている分なんですが、右側に書いています伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項であったりとか、左側に書いております言語についての知識・理解・技能が少し弱いところが見られます。

20ページをごらんください。

じゃ、実際、課題となった設問についてですけれども、中ほどから下のあたりです。文章にあらわれているものの見方、考え方について、自分の考えを持ったりとか、書いた文章を読み返したり、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することについては、結構の生徒ができています。特に、書いた文章を読み返して、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することについては、非常によくできているかなという結果が出てきました。

ただ、一方、封筒の書き方を理解して書くこと。今回、封筒の書き方というのが出てきたんですが、これが全国・府に比べると、熊取町はすごく低かったんですね。全国・府も同じように手紙をそんなに書かなくなったという状況ではあるんですけども、熊取町がここはちょっと低かったかなというところでした。

あと、話し合いの話題や方向を捉えて、自分の考えを持つことについても課題があると。実際、21ページ、22ページ、特に22ページのところですが、封筒の宛名書きを書くというものですが、なかなか実生活の中でこういった経験も少なくなっているのかなという

ところはあるんですが、例えば中学校とかだったら、職業体験とか行ったりするので、そのときのお礼状なんかを封筒で書いたりするという、実生活の中で実際使うという経験を学校の中で設定しながらやっていく必要もあると思っています。

25ページをごらんください。

25ページの3行目のところ、②平成28年度調査との比較ということで、中学生が小学校6年生のときにはどうだったのかということで、同じ子どもについての比較をしております。

特に、7行目の終わりあたりから見ていただいてもいいでしょうか。3段落目の4行目、平成28年度のA及びB問題で、全国・大阪府を下回った「読むこと」、熊取町は、「書くこと」もですが、「読むこと」も比較的課題だなというところがあったんですが、「読むこと」については、大阪府を上回って、全国を下回ったものの、差は小さくなってきたということで、「読むこと」についても、少し力はつけられるようになってきているのかな。同じ子どもが小6より中3のときのほうが読む力についてはついてきているなというところがわかったところではあります。

そこについては、その下に書いておりますが、各小・中学校において、国語を初め他教科においても複数の資料を関連づけてどう読み取っていくか、あるいは文章と資料をどう関連づけて読むかというのを意識して指導してきてくれた成果かなと感じております。

③には、生徒質問紙との関連性を分析しております。国語の授業における言語活動を問う質問への肯定的な回答は大阪府を上回り、全国を少し下回る傾向が見られました。

ただ、一方、下から6行目のところを見ていただいてもいいでしょうか。「国語の勉強は好きですか」とか、「国語の授業の内容はよくわかりますか」という質問への肯定的回答は、とても低かったんですね。例えば、全国・大阪府と比べると、大きく下回る結果になりましたので、中学生の国語の授業づくりをもう一回見直していただく、考えていただく必要があるのかなと思ったところです。

続きまして26ページ、中学校の数学です。

中ほどに書いておりますが、平均正答率については、全国を上回る結果になっております。例年、数学については全国を上回る結果になっているかと思っています。

27ページには、課題となった設問と書いております。これもやっぱり小学校と一緒に、「記述式」のところが課題になるところは同じ

でした。

具体的に書いておりますが、8の(2)ということで、「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題」。この問題で課題が見られるなというところがわかりました。小学校同様、日々の授業で数学的な表現を用いて説明できるような課題設定を授業の中で多く持っていく必要があるのかなということ。

あと、もう一点、課題だなと思ったのが、無解答率がこの問題は高かったんです。なので、考えようとしたけれども書けなかったのか、あるいは考えようとしなかったのか、そこが少しわからないんですけども、そのあたりも子どもたちが解いてみたい、考えてみたいというような問題を授業の中でやっぱり多く取り入れながらやっていく必要があるのかなと思っています。

27ページの下、28ページには、具体的な設問の内容を書いております。

29ページの一番下のところをごらんいただいてもいいでしょうか。中学校の調査については、彼らが小学校6年生のときはどうだったかというふうに、同じように、数学でも比較しております。

30ページの2行目のところをごらんいただいてもいいでしょうか。彼らたちが6年生のときは、観点の「技能」というところで、算数A、算数Bともに大阪府を下回っていたけれども、ことしの調査では、「技能」については上回っていると。

そこから3行下、3段落目のところをごらんいただいてもいいでしょうか。

ことしの調査では、学習指導要領の全ての領域（「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」）が決められているわけですが、そこで大阪府平均を上回っており、一定の定着度が見られるかなと思っています。

③の生徒質問紙との関連性です。ここについても小学校同様、関係が見られました。「数学の勉強好きですか」とか、「数学の勉強は大切だと思いますか」とか、「数学の授業の内容はよく分かりますか」という質問に対して、「当てはまる」と回答した生徒のほうが正答率が高いということになっております。ですので、当然、授業あるいは算数・数学に興味・関心を持って取り組むということが非常に大事なポイントになってくると思っています。

31ページをごらんください。ことし初めて実施された中学校英語

です。

真ん中のほうに書いておりましたが、グラフについては、大阪府・全国とよく似たグラフになっているかなと思っています。結果で言いますと、全国・大阪府を少し上回るという結果になっております。平均無解答率もすごく低かったというところもうれしかったなと思っています。

では、具体的にどんな設問が課題となったのかというところですが、32ページの中ほどより下をごらんください。聞き取りの問題です。課題となった設問については、設問4番、「聞いた内容に適切に応じる」。どういうことかという、聞いたことをもとに書くということです。自分で考えて、書くという技能統合です。聞くという技能を使って、書くという技能を使うという技能統合の問題について、少し課題が見られたというところでは。

実際に、32ページのところに設問を載せておりましたが、英語の授業で、来日予定の留学生から音声メッセージを聞くところです。メッセージの内容を踏まえて、あなたのアドバイスを英語で簡潔に書きなさいというような問題です。聞いて、内容を理解して、それに対してアドバイスを英語で書くというような問題が出題されています。

34ページをごらんいただいてよろしいでしょうか。下のほうにあります生徒質問紙との関連性です。

特にこの問題についての分析ということで、「1・2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点を捉える活動が行われていたと思いますか」という質問に対しては、肯定的な割合は7割を超えていた。けれども、この問題についての正答率は低かったと。これについては、技能統合の問題ですので、聞けなかったのか、あるいは書けなかったというのは、ちょっとどちらが課題だったのかというのはわからないんですけども、そこを学校のほうで見きわめながら指導計画を立てていってもらい必要があるかなと思ったところでは。

36ページ以降は、先ほどまで説明させていただいたものを細かく分析して、まとめて書いた分になります。国語、算数・数学、英語というふうに書かせていただいています。特に方策について、少し話をさせていこうと思います。

36ページの下のほうに書いておきます国語力向上に向けての方策、ここについては「漢字を文の中で正しく使うこと」。学校の先生方に話を聞くと、なかなかみんな漢字を書きたがらない、平仮名で書くと

いうことで、漢字をなかなか書かないんだというようなことを聞いたりしております。漢字を覚えるだけじゃなくて、文の中で正しく適切に使うことだったり、「話し合いの話題の方向を捉えて自分の思いをもつ」、このあたり指導するときに気をつけていただいたらいいかなということで書かせていただいております。

37ページには、具体的に漢字を正しく書く上で、こういったところを気をつけてもらえたらというようなところを学習指導要領の解説をピックアップして載せております。

38ページには、話し合いの話題や方向を捉え、自分の考えを持つには、こういった指導がありますよといったところ、言語活動例ということで、表の右側に具体的な活動例ということで書いております。

続きまして、39ページには、算数・数学の課題、40ページには、その算数・数学の学力を上げるための方策ということで、大きく太文字で4点書かせてもらっています。

その中で、本町としての小・中の課題というところで、記述する力、記述というところが課題でしたので、大きな2番あたりをしっかりと授業づくりの充実ということで行っていく必要があるのかなと思います。児童・生徒が主体的にかかわり、表現する授業づくりの充実、このあたりを学校のほうでもやっていただいていると思うんですが、いま一度確認しながら、授業づくりを充実させていっていただく必要があるかなと思っています。

41ページの下には、英語の課題、続きまして42ページの下には、方策というふうに書かせていただいております。

課題については、「書くこと」が課題ということで課題の一つとして挙げておりますので、43ページには各領域ごと、技能ごとに方策について書かせていただいているんですが、特に「書くこと」、考え・気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書く指導を充実していくこと。あと、技能統合ですね。書くだけじゃなくして、自分で話したことを書く、読んだことを例えば自分で要約するとか、自分の考えを書くという技能統合をした指導もあわせてしていく必要があるかなと思っています。

44ページまでが、それぞれの教科に関する分析になります。

45ページ以降は、質問紙の分析となります。1行目に書いておりますが、今年度の質問紙の調査の質問数は、小学校で58問、中学校で69問でした。

ざっと45ページから49ページまでが昨年度との比較であったり、

中学生が小学校6年生のときの比較ということで、矢印で上がったとか下がったとかいうのを表示させていただいております。

50ページには質問紙、国のほうでも7つの分類に分けて質問紙を作成されておりますので、同じく町のほうでも7つの分類に分けて質問紙の分析を行いました。

51ページ以降については、それぞれの質問に対して、熊取町の子どもはどれぐらいの割合で答えているのかというようなことがわかるグラフをつけております。51ページから70ページまでが小学校、71ページから中学校ということになっております。

それでは、94ページをごらんいただいて、それぞれ7つの分類に分けて分析をしておりますので、その部分について少し説明をさせていただきます。

まず、基本的な生活習慣等ということで、ずらっと書かせていただいておりますが、一番下の段落をごらんいただいてよろしいでしょうか。「朝食」「就寝時間」については、小・中とも改善傾向にあります。昨年度よりことしのほうが肯定的回答が高かったと。ただ、家庭でのコミュニケーションをとる割合は、実は年々低下しています。特にことしは中学校で大幅に減少がありました。当然、子どもが成長する上では学校の教育だけじゃなくて、家庭教育というのも大事になってくるんですけども、一方なかなかコミュニケーションがとれていない。それぞれみんな生活スタイルがあるんですが、ここについても少し気になる点ではあるなと思っています。

続いて、②挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等。非常に気になる設問と思っています。

まず、ここは少し詳しく説明をさせていただこうと思っています。「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対しては、小学校で肯定的な回答は8割程度です。3行目のところに書いておりますが、中学校は7割程度ということになっております。全国・府を大きく上回っているわけではありません。昨年度と比較すると、小学校では少し減少、中学校では実は9.4ポイント減少となりました。

続いて、95ページをごらんください。

2段落目です。「先生は、あなたのよいところを認めてくれますか」という質問です。これは小学校では肯定的回答が8割超え、中学校では7割超えですが、全国・大阪府よりも低い状況です。では、その肯定的回答がどっちに移動しているかという、「どちらかといえば、あてはまらない」という割合、もう少し何かの取り組みであ

ったり、声かけだったりがあれば、多分肯定的な回答に移行するのかなというようなところですが、「どちらかといえば、あてはまらない」という割合が高いなというところですが。ただ、昨年度の調査結果から比較すると、小・中とも肯定的な回答は増加しているの、そこは学校の先生方、非常に頑張ってやってくださっているのかなというふうに思ったところですが。

続きまして、3段落目です。「先生は分かるまで教えてくれますか」という質問もありました。小学校の肯定的な回答は9割を超えています。これは全国・府よりも高い状況。ただ、一方、中学校では肯定的な回答の割合は8割程度で、全国を7.2、大阪府を3ポイント下回っております。新しい学習指導要領でも、主体的に学ぶ場面と、先生が教える場面というようなところを言われています。そこをうまく組み合わせながら、授業を進めていく必要があるのかなと思っています。

続きまして、1つ段落を飛ばしまして、「難しいことでも挑戦していますか」というところですが。これは小・中とも全国よりやや低くはなっておりますが、ただ一方、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことはありますか」とか、「学級で協力して取り組みうれしかったことはありますか」ということについては、小・中とも全国・府よりも高い状況です。いろいろ子どもたちが取り組みたいと思うような内容のものを学校で工夫して、子どもたちが意欲を持ちながらできるような取り組みを学校でやってくださっているのかなと思っています。

「学校に行くのは楽しいか」については、小学校においては肯定的な回答が9割を超えています。これも全国より上回っています。中学校においては8割を超えています、全国を少し下回って、府よりも高いというような状況でした。学校行くのが楽しいと思っている小学生は9割を超えて、中学生は大体8割を超えている状況です。

続きまして、「学校のきまり（〔中〕規則）は守っていますか」という質問です。小学校においては、守っていると答えた子どもが9割を超えております。昨年度の熊取町の結果と比較しても、5.4ポイント増加ということで、きまりはちゃんと守っているよという子どもの数はふえています。ただ、中学校については、肯定的な回答の割合は9割を超えているんですが、全国・府はもっと高く、それを下回るということになっています。ただ、昨年度と比べると、中学校同様、肯定的な回答はやや増加している状況ではあります。

1段落飛ばしまして、下から2行目のところです。「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」というふうに対して、そうだと答えた子どもさんが、小学校では98.8%、中学校では93.9%でした。昨年度と比較すると、小学校は1.6ポイント増加、中学校では同じでした。小学校で実は「当てはまらない」と完全否定した子どもはゼロでした。ただ、一方、「どちらかといえば当てはまらない」と答えた子どもたちが、小学校は0.9%、中学校では5.8%の子どもさんがおられたので、子どもたちへの対応について、やっぱり今後、考えていく必要があるかなというふうなことを思っています。

その下の段落です。「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問に対しては、そうだと答えた子どもは、小学校で97.5%、ほぼ全員がそうだと答えています。全国・府よりも高い。一方、中学校についても9割は超えておる状況ではあるんですが、92%ということで、全国・府よりもやや低い結果となりました。

続きまして、③学習習慣等です。家でどれぐらい勉強していますかとか、計画していますかとか、読書していますか、新聞を読んでいますかというような質問です。

まず、最初に書いております「家で自分で計画を立てて勉強をしますか」につきましては、小学校では7割程度肯定的回答、中学校では5割程度の肯定的回答となっています。7割の小学生はやっています、5割の中学生がやっていますというような回答になっております。この結果は、昨年度と比較した場合は、小学校では増加しているんですけども、中学校はちょっと減少しているというような状況です。

1段落飛ばしまして、読書時間です。学校以外での平日の読書時間について、全く読書をしない割合については、小学校では2割を超えています。中学校では5割程度、半分の子どもさんが全く読書をしない。これは全国・府よりも割合は高い状況ではあります。ただ、昨年度との比較を見ると、小・中とも読書をしない子どもの割合は減ってきております。司書のほうも配置しておりますので、学校で工夫しながら、本に触れる機会というのを提供していただいているのかなと思っています。

97ページをごらんください。

3行目のところです。「新聞を読んでいますか」というような質問もありました。これに対して、「ほとんど、または全く読まない」と回答している小学生の割合は6割を超えています。中学生は8割程度



読んでいない。読んでいるのが2割ぐらいです。昨年度より、小・中学校とも低下はしております。

以上のような結果を踏まえて、その下の段落ですが、小学校においては家庭学習の状況は改善されています。各学校の取り組みの成果として、家庭学習の習慣が定着しつつあるかなと思っています。ただ、一方では、中学校のほうが家で計画を立てて勉強しているという割合が下がってきておりますので、小学校でどんな取り組みをしているかというのを、それを参考にしながら、できる取り組みは中学校でも継承してやっていくという、小・中連携の視点ということも大事になってくるかなと思っています。

その下の段落です。読書時間については、先ほども言わせていただいたとおり、司書であったり、司書教諭さんが中心となって取り組みを充実させてくれたことによって、読書時間については昨年度より改善傾向にあるかなと思っています。

また、その続きですが、放課後、昼休みを学校図書館や地域の図書館に通う小学生は、全国・府に比べると、実は多いんですね。ただ、中学校においては、教科の調べ学習を学校図書館で行うなど、授業で学校図書館に行くことはありますが、昼休みや放課後に行く中学生は少ない。当然、昼練があったりとか、クラブもあったりとか、友達とグラウンドで遊んでいたりする場合もあるんですが、今後、生徒が図書館に行きたいと思うような取り組みを、図書委員会など生徒が主体となった取り組みを各学校で進めていただくということも改善策として考えられるかなと思っています。

続いて、④地域や社会に関わる活動の状況等です。

2段落目のところをごらんいただいているでしょうか。これも昨年から新しくできた質問だと記憶しておるんですが、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」という質問があります。これに対して、小学校では6割の子どもがありますと答えて、全国・府よりも高い状況。ただ、一方で中学校のほうでは3割を超えている状況ではあります。

あと、段落が変わりまして、今回新たに加わった質問として、「外国の人と友達になったり、外国のことを知ったりしたいと思いませんか」とか、「日本等について、外国の人に知ってもらいたいと思いませんか」という、いわゆるグローバル社会を見据えた質問だなというふうに思っているんですが、そこについては、小学生は比較的割合は高いんですけども、中学生が全国・府よりも低い割合だったというところ

ころが結果としてわかってきています。

続いて、98ページをごらんください。

⑤部活動に関する状況です。

まず、部活動に参加している生徒の割合は、この質問紙から見ますと、83.4%です。大阪府より高いけれども、全国よりは低いということです。ただ、実は去年、この質問はなかったんですが、2年前にこの質問がありました。29年と比較すると、ポイントがふえておりますので、部活動所属の生徒数は2年前よりはふえているのかなということがわかります。

あと、平日の部活動の時間、2時間以上の割合は47.3%。これは全国・府よりは低い割合にはなっておりますが、2年前とほぼ同じ割合になっています。現在、学校では部活動運営方針に従って、平日は2時間程度ということでやっていただいておりますが、それが開始したのはちょうど4月からでしたので、子どもの回答は恐らく中2のときやっていたクラブとかいうのも想定しながら答えてくれているかなというふうには思っています。

3段落目に書いておりますが、今回新たに「部活動に参加する理由」を問う質問も加わっています。あなたは何でクラブに入っているんですかというような質問が入っているわけですが、熊取町では「楽しいから」という割合が最も高く、次いで「体力・技術を向上させたいから」というものが2番目に来ていました。全国は反対だったんですね。「体力・技術を向上させたいから」と「楽しいから」ということでした。これはいろんな捉え方があるとは思いますが、町においては、部活動所属者数は全国より少ないけれども、楽しく部活動に参加している生徒が多くて、各学校によってクラブ運営をうまくやっていただいていると考えられるかなと思っております。

続きまして、⑥ICTを活用した学習状況。これも小学校のプログラミングを見据えた質問項目ということで、新しく加わったものです。

ここについては、2行目のところから読ませさせていただきます。「5年生〔あるいは中1、中2のとき〕に受けた授業で、コンピュータなどのICTを週1回以上使用した」と回答している割合は、小学校で実は3割程度、これは全国・府よりも低いです。一方、中学校では3割を超えて、全国・府よりも高い状況です。

もう一個質問がありまして、次ですが、「授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思う」と回答している割合は、小学校では全国・府よりも低いけれども、中学校では全国・府よりも高い。

使う頻度が高ければ高いほど、もっと使いたいと思うのかなというところが考えられます。

その下をごらんください。小学校においては、来年度から本格的にプログラミング教育が始まります。熊取町においては、委員の皆さんもご存じのように、コンピュータの台数を増設して、今、2人に1台ですけれども、来年からは1人1台使えるようになります。そのことによって、使用頻度は上がっていくかなと思われま

す。続きまして、最後、99ページになります。

⑦主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況ということで、ここについては新学習指導要領の目玉的な感じになっております。この主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくりというところをもとにした質問が多くありました。全体的には、比較的肯定的な割合が高かったかなと思っています。

1行目のところをごらんください。「話しあう活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」については、小・中とも7割を超えて、全国・府よりも高い状況。あと、学力調査結果との関連性についても、相関関係が見られたというところ

です。自分が授業の中で考えたりしている子のほうが、力もついていっているというような状況であります。少し飛びますが、下から3段落目のところをごらんいただいてよろしいでしょうか。「今まで受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」ということについても、小・中とも全国・府よりも高い状況。去年との比較においても、小学校でも中学校でも肯定的な回答はふえております。相関関係については、小学校では見られませんでした

が、中学校では見られたということで、課題を設定して、自分でどうやってやったらいいだろうか、あるいはグループで話し合いながら授業づくりを進めていただいているということがここから見えるかなと思っています。また、その下ですけれども、「今まで受けた授業では、自分の考えが伝わるように、話の組み立てなどを工夫して発表していたか」ということについても、小・中とも府より高く、全国とほぼ同じ状況。昨年度と比較しましても、小・中ともふえております。プラス学力テストとの相関関係もあったというところで、このあたりも授業づくりをする

ところ

で大事な視点ではあるかなと思っております。

進めているところです。承認していただいた後は、この分析結果につきましては、町の情報公開コーナー及び教育委員会の事務局のほうに配架する予定です。また、ホームページには概要ということで、全ては載せないんですけれども、今後の課題とか概要を載せる予定です。また、あわせてこの分析結果については、町長、副町長、議員の皆様にも配付する予定です。

随分長くなりましたが、承認いただきますようよろしくお願いいたします。

勘六野教育長

ただいまの報告事項について、何か今の段階で質問なり、気になる点があれば、お受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。

時間のない中で、これを承認していただくのは非常にしんどい話になると思うんですが、生徒質問については、これをずっと見るだけで、いろいろ自分なりのまた捉え方もできるし、今後の分析も自分なりの分析もできるかなど。ただ、教科のほうについてはこれだけではできませんので、これを読んでいただいて、状況を把握していただけたらというふうに思います。

では、議案第17号「『平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 熊取町の分析結果』について」承認としてよろしいか。

委員全員

（「はい。」の声）

勘六野教育長

議案第17号「『平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 熊取町の分析結果』について」承認とします。

続きまして、当日配付いたしました今の続き、29ページになります。議案第18号「後援名義使用願の承認について」、事務局から説明をお願いいたします。

立石課長。

立石課長

それでは、議案第18号「後援名義使用願の承認について」（第1回ふれあいサッカーフェスティバル）、ご説明申し上げます。

当日配付の議案書29ページをごらんください。

令和元年9月25日付で、泉佐野市サッカー連盟会長、北谷辰彦氏より第1回ふれあいサッカーフェスティバルの開催について、当委員会の後援名義使用願がありましたので、これを承認するものでございます。

本案件は、新規の案件としてご審議をお願いするものでございます。  
30ページの後援承認申請書をごらんください。

開催日は、2019年（令和元年）10月27日、日曜日でございます。

開催場所は、泉佐野南部公園でございます。

行事の概要は、子どもたちが身体を動かす楽しさ、スポーツをする喜びを体験することで、スポーツが日常にある生活環境にする。このフェスティバルを通じて、仲間たちと出会い、助け合い、挑戦しながらお互いの親睦を深めることを目的とする。これはサッカーのイベントになっております。

36ページ、37ページをごらんください。

チラシを添付しております。セレッソ大阪と泉佐野市サッカー連盟が連携した体験型スポーツイベントで、みんなでスポーツを楽しむというものとなっております。

恐れ入りますが、30ページに戻っていただきますようよろしくお願いいたします。

参加予定人員は、100人となっております。参加対象は、熊取町の方を含めまして、小学生となっております。参加負担は、保険料として200円でございます。先ほど申し上げましたチラシのほか、同連盟の加盟登録規程、本イベントの実施要項、同連盟の規約、イベントの収支予算書、同連盟の役員名簿につきまして、31ページから39ページに添付させていただいております。

以上、議案第18号「後援名義使用願の承認について」（第1回ふれあいサッカーフェスティバル）のご説明とさせていただきます。よろしくご審議いただきまして、ご承認賜りますようお願い申し上げます。

以上で説明を終わります。

勘六野教育長

ありがとうございました。

ただいまの報告を受けまして、新規案件なので、見ていただいて疑問点等ありましたら、お受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。

この資料を見る限り、サッカーのイベントで子どもたちが集まって、親睦を深める、技術の向上というようなことなので、よろしいですか。

では、議案第18号「後援名義使用願の承認について」承認としてよろしいか。

委員全員 (「はい。」の声)

勘六野教育長 議案第18号「後援名義使用願の承認について」承認とします。  
以上で、本日の会議に付されました審議すべき議案が終了いたしました。  
何かほかに審議すべき議案はございますでしょうか。  
ないようですので、令和元年の10月教育委員会定例会の審議は終了して、引き続いて報告事項に入りたいと思います。

(その他 報告事項)

勘六野教育長 順次、挙手の上、報告していただきたいと思います。  
課長。

松浪課長 『教育委員会事務局職員の異動（令和元年10月1日付）P. 9より説明』

勘六野教育長 この件で質問はございませんか。  
では、引き続いて、ほかの報告をお願いします。  
荒木参事。

荒木参事 『後援名義使用願の承認について（令和元年度泉南郡小学校音楽会）P. 10より説明』

『後援名義使用願の承認について（第32回 日書美学生公募展）P. 40より説明』

勘六野教育長 ただいま報告がありました2点の事業について、ご質問ございませんか。  
では、ないようですので、次の報告事項に移りたいと思います。  
瀬野参事。

瀬野参事 『後援名義使用願の承認について（第39回 くまとりこどもまつり）P. 12より説明』

『後援名義使用願の承認について（子育て・親育ち・とも育ちトー

ク&トーク) P. 13より説明』

『後援名義使用願の承認について(「見えない不安を安心へ変える  
一歩は“家計簿記帳”」講習会) P. 14より説明』

『後援名義使用願の承認について(CAP おとなワークショップ  
子どもが安心して育つためにおとなができること) P. 15より説  
明』

勘六野教育長 4点の事業の後援名義の使用願の承認ということで、ご質問ござい  
ませんか。  
昨年も後援させていただいて、何も不都合はございませんので、引  
き続いて承認するというところでよろしくお願ひします。  
そのほかの報告事項をお願ひします。  
吉田統括理事。

吉田統括理事 『小・中学校行事予定P. 42より説明』

勘六野教育長 よろしいですか、ご質問は。  
では、そのほかの報告をお願ひします。  
立石課長。

立石課長 『生涯学習推進課事業予定P. 16～P. 18より説明』

勘六野教育長 ご質問はございませんか。  
では、その次、お願ひします。  
図書館長。

原田図書館長 『図書館事業予定P. 19～P. 20より説明』

勘六野教育長 ありがとうございます。  
今の報告で、ご質問ございませんでしょうか。  
そのほかにございますか。  
ないようですので、以上をもちまして、10月の教育委員会定例会、  
審議、報告を終わりたいと思います。どうも長時間ご苦勞さまでした。

閉会 午後 6 時 13 分

---